


研究構想

研究主題

自分の考えをもち、共に学び合うふせっこの育成（４年次）

～じっくり・わいわい・ちょんぼし分かった ～

1 主題設定の理由

（１）学習指導要領より

学習指導要領では、育成すべき資質・能力を明確化し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の３つの柱に整理されている。これら資質・能力の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が求められている。

（２）学校教育目標より

本校の学校教育目標は、「人間尊重の精神に徹し、豊かな人間性とたくましい実践力をもつふせの子の育成」である。確かな学力の育成については、「考える楽しさ・わかる喜びを味わい、進んで表現し、高め合える子」を目指している。本主題は、この学校教育目標を具現化するものである。

（３）本校児童の実態から

令和３年度に行った本校教員へのアンケートにより、以下のような算数科についての本校の児童の実態が捉えられた。

- ・ 基礎的な計算に時間がかかる児童と、基礎はできている児童の二極化が見られる。
- ・ 算数用語を使った説明や、筋道を立てて説明することが難しい。
- ・ 自分で考えずにすぐ「分かりません。」と頼る姿や、不安なのか「これでいいですか？」と確認する姿がある。

これらの実態から、算数科の授業改善に取り組むことで、粘り強く課題に取り組み、お互いに関わり合いながら学びを深める子どもを育てたいと考えた。互いに考えを交流することによって、問題を解く力や、分かりやすく説明する力をつけ、一緒に考える楽しさにつなげたいと思い、実践を積み重ねてきた。

令和３年度は、課題の設定、個人で考えをまとめるための工夫、個に応じた支援など、「自分の考えをもつための指導の工夫」を中心に実践を重ねた。

令和４年度は、「共に学び合うための指導の工夫」について重点を置いて実践した。

令和５年度も、「共に学び合うための指導の工夫」について、わいわいタイムにおいて話し合いが深まるような教師の手立てに重点を置き実践してきた。具体的には、指導案に予め「問い返しの言葉」や「児童から引き出したい算数の言葉」を表記することとし、指導者がわいわいタイムの見通しをもって取り組むことにした。その中で、大きく以下の２点が課題としてあがった。

- ① 「わいわいタイム」において、教師主導の現状から児童同士が主体的に話し合う工夫が必要である。
- ② 「わいわいタイム」において、児童が考えを深められるような発問指示や問い返しの工夫が必要である。

また、研究を始めた令和3年度から3年が経ち、児童の実態も変わってきている。以下は、令和6年度4月時の教職員アンケート、令和5年度の児童アンケートから児童の実態をまとめたものである。

- ・ 学習や発表することへの意欲があり、話し合ったり教え合ったりする雰囲気がある。
- ・ 話をよく聞き、反応を返すことができる児童が多い。
- ・ 自分の考えをまとめることに時間がかかる児童が多い。
- ・ 算数が好き、自分で考えることが好きと感じている児童が多い。
- ・ 自信がない時には間違いを恐れ、自分の考えを表出することに消極的な様子がある。
- ・ 指示理解が難しい児童、集中が続きにくい児童がいる。
- ・ 指示待ちの雰囲気がある。
- ・ 未知の問題に対して、どうしたらよいのか分からない児童がいる。
- ・ 自分の考えを説明する時に、友達への相手意識をもって説明している児童は少ない。

これらの児童の実態や昨年度までの課題を踏まえながら、今年度の実践を行い、研究を進めていきたい。

2 主題の捉え方

- ・「自分の考えをもち」・・・主体的に課題に取り組み、具体物、式、言葉、図等を使って自分の考えをまとめること。
- ・「共に学び合うふせっこの育成」・・・自分の考えを筋道立てて伝えたり、友達の考えを聴いて理解しようとしたりすること。複数の考えを比べてよりよい考えを見付けたり、それぞれの考えの良さに気付いたりすること。
- ・「じっくり」・・・1時間の授業内の個人思考の時間のこと。
- ・「わいわい」・・・1時間の授業内の学び合いの時間のこと。
意見を出す段階と、練り上げる段階を含む。
- ・「ちょんぼし分かった」・・・1時間の授業の終末部のまとめ、ふりかえりで「少しでも分かった！」という子どもの喜ぶ姿をめざす。

3 目指す子ども像

- ・ 未知の課題に対して、進んで関わり、既習事項をもとに考えようとする子ども
- ・ 分からないことがあっても、粘り強く考える子ども
- ・ 自分の考えをもち、友達に分かりやすく話そうとする子ども
- ・ 友達の考えを自分の考えと比べながら聞き、理解しようとする子ども
- ・ 話し合いを通して、それぞれの考えの良さに気づいたり、大事なことをまとめたりできる子ども

3 研究仮説

自分の考えをもつための指導や、共に学び合うための指導を工夫すれば、児童は主体的に課題に取り組み、学習内容の理解が深まり、相手に分かりやすく表現する力が育つであろう。

4 研究内容

(1) 自分の考えをもつための指導の工夫（「じっくりタイム」） 網掛け：今年度の重点事項

◎ 児童が「考えてみたい」と思う学習課題・問題場面の提示

- 見通しをもつための工夫
- 自分の考えをもつための工夫（具体物・絵図活用、ワークシートの工夫、分からない時の手立て）
- 自分の考えをまとめる方法の提示（図・式・言葉）
- 個に応じた支援（個別指導、既習内容を確認めることのできる場や物の工夫）

(2-1) 共に学び合うための指導の工夫：自分の考えを伝える段階（「わいわいタイム」）

- 学習形態（ペア・グループ・全体、児童主体で進める）の工夫
- 考えを共有しやすくする工夫（ICT 機器活用、既習の算数用語の掲示、再話させる、確認の問い返し）
- 説明の仕方の指導（筋道を立てて・短く・図を指しながら）
- 話し合いのスタートの工夫（分からない・困ったから始める、易から難へ意図的指名）

⇒ 児童の主体的な姿を引き出すこと

(2-2) 共に学び合うための指導の工夫：自他の考えを深める段階（「わいわいタイム」）

- 式・言葉・図を関連付ける工夫
- 話し合いを深めるための工夫（発問、指示、板書、意図的指名、問い返し等）
- 本時の学びを確かにするふりかえりの指導

5 研究方法

- (1) 先行研究等をもとにした理論研究
- (2) 授業研究による検証、分析、評価
- (3) 教職員研修（「授業見合いっこ WEEK」「しゃべりば Café」等）
- (4) アンケート、観察等による児童の実態把握と変容の記録
- (5) 算数の基礎基本の力をつける、また発展的課題に触れるための取組
（「ばっちりタイム」、「ひらめきコーナー」、家庭学習の充実、学力アップ週間）

6 研究計画

月	内容
4月	家庭学習の手引き配布
5月	研究構想作成、めざす子ども像の共有
6月	研究内容について共通理解
7月	授業研究①（4年）「」
8月	研究部作業（ばっちりタイム・ひらめきコーナー準備、ふりかえり掲示の修正等） 学力調査分析
9月	授業見合いっこ WEEK

	授業研究②（年）「」・研究協議
10月	授業研究③（年）「」・研究協議 授業研究④（年）「」・研究協議
11月	授業研究⑤（年）「」・研究協議
12月	授業研究⑥（年）「」・研究協議、児童アンケート
1月	授業実践（）「」 研究集録作成
2月	研究集録作成、今年度の振り返りと来年度の計画
3月	